

第3学年保護者様

加古川市立両荘中学校
校長 中尾 裕彦

全国学力・学力状況調査について

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握・分析し、改善を図ることを目的に、本年度は、国語、数学、英語の3教科が、4月18日（木）に実施されました。

以下の結果は、本校の現状を分析してまとめたものです。掲載している結果は、学力や学習状況の一部であることを踏まえつつ、この結果を基に、学校と家庭が連携しながら、これからの時代に求められる資質、能力の育成を図っていきたいと考えています。

なお、表示につきましては加古川市教育委員会の規定に基づき以下のように表現しています。

【加古川市の基準】

区 分	表 現
国及び県の平均正答率と本校の平均正答率の差が6%以上であるもの	十分満足できる状況
国及び県の平均正答率と本校の平均正答率の差が±6%未満であるもの	概ね満足できる状況
国及び県の平均正答率と本校の平均正答率の差が-6%以上であるもの	改善が必要な状況

1. 【学力調査の結果】各教科の正答率

教科(項目)	正 答 率 (%)			本 校
	全 国	兵 庫 県	加古川市	
中学校国語	72%	73%	72%	概ね満足できる状況
中学校数学	59%	62%	60%	概ね満足できる状況
中学校英語	56%	58%	57%	概ね満足できる状況
英語【話すこと】 ※参考値	30%	—	33%	改善が必要な状況

今年度3年生は、すべての教科項目において、全教科全国平均、兵庫県平均の値との差が±6%未満であり、概ね満足出来る状態でした。

特に国語の短答式の設問は全国、兵庫県平均よりも6%以上、上回っており、十分に満足できる状況でした。

英語の話すことに関しては中学校によってパーソナルコンピューターの設置状況が違うため、参考値として国及び加古川市のみ正答率と比較している。

(優れているところ)

「国語」

- ・相手に分かりやすく伝わる表現について理解する。
- ・話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ。

※学習指導要領の領域に示す「話すこと」「聞くこと」の分野では十分に満足できる状況でした。

「英語」

- ・日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる。

(課題とされているところ)

「国語」

- ・語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する。
- ・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く、話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつという問題での無回答率が国・県に比べて高い。

「数学」

- ・数の集合と四則計算の可能性について理解していることが弱い。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。
- ・事柄が成り立つ理由を説明する。
(連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する。)
- ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する問題での無解答率が高い。
- ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題での無解答率が高い。
- ・事柄が成り立つ理由を説明する問題での無解答率が高い。
- ・ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ問題の正答率が10%以上低い。

「英語」

- ・まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解する。
- ・まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解する。
- ・まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解する。
- ・一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書く。
- ・聞いて把握した内容について、適切に応じる問いに対して無解答率が高い。
- ・書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえる問題で無解答率が高い。
- ・基本的な文法(現在進行形)を理解して、応答する問題の正答率が全国の平均正答率に比べて10%以上低い。
- ・与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話す問題の正答率が全国の平均正答率に比べて10%以上低い。

2 【生活状況調査の結果】

【優れているところ】(全国・県よりも10%以上、上回っている項目)

- ・1時間以上家庭学習を行っている。
- ・人が困っているときは、進んで助けている。
- ・人の役に立つ人間になりたい。
- ・今住んでいる地域の行事に参加している人が兵庫県、全国平均よりも大幅に多い。
- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

【問題になるところ】(全国県より10%以上、下回っている項目)

- ・読書が好きでない。
- ・学校の図書室や地域の図書館を利用していない。
- ・学級に新聞が毎日あるのに、月に一度も新聞を読んでいない。
- ・授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したい。
- ・1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む活動が少ない。
- ・1、2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動が少ない。
- ・1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が少ない。

3、今後の取り組み

【国語】

- ・言語についての知識・理解・技能が国・県に比べて低くなっている。国語辞典の有効活用やそれに伴う「書く」活動を通じて、学力の定着を図る。
- ・「話すこと」・「聞くこと」の正答率が高いため、表現できる場を積極的に設けたい。

【数学】

- ・平均正答率を見ると、「知識・理解」に関する項目が低く、その基礎的な知識の定着度を上げていくことで、その他の項目についても正答率の上昇につながると思われる。
- ・説明に関する問題において、多数の生徒が無回答または不正解になっている。これらは思考力・判断力・表現力が低く、粘り強く考えることができているか、考えを適切に表現する方法を知らないことが原因である。

そこで、授業において、思考力・判断力・表現力が養われる問題に多く取り組みたい。

【英語】

- ・ 基本的な英単語の習得・定着を図る。
- ・ ALTと連携して「書く」・「話す」活動を充実させる。
- ・ 授業中での演習時間を増加する。

4. 【考察】

今年の3年生は、地域行事に積極的に関わり、学校生活も落ち着いている様子うかがえます。

また、素直で指示されたことは確実に実行しようとする資質や人の役に立ちたいという意欲を備えており、学習面をはじめいろいろな面で今後の成長が期待できます。

一方で、指示したことは実行したり、行事にも参加していますが、主体的に意欲を持って参加したり、新たに企画したりすることに課題がみられます。

学習面においては、家庭における計画的な取り組みや授業の復習が十分に行われておらず、少し困難な問題に対してはすぐにあきらめてしまう傾向が見られます。

今後は、学習面、生活面いずれにおいても、物事の本質を十分に理解し、何事にも主体的に取り組む意欲を育成する必要があると考えられます。